

# 月刊 地球基地

## 今月のごあいさつ

こんにちは、アースベース七月のノザワです。  
いよいよお暑い盛りです。今年は特に暑いと毎年毎年言っています。去年もその前も言っていました。来年も言うでしょう。日差しに負けないようにしてくださいませ。  
童謡？唱歌？の「たなばたさま」。

♪ささのはさらさら のきばにゆれる  
おほしさまきらきら きんぎんすなご

の、あれです。あれ、子供の頃に聞いて歌って、漠然となっていますが、けっこう難しい歌詞ですよ。

「さらさら」は笹の葉がこすれ合っている音でしょう。「のきば」は軒端。屋根の折りっかえしですね。

では「きんぎんすなご」ってなんでしょう？漢字にすると「金銀砂子」。金銀はおなじみですが、砂子とはこれいかに？

砂子とはわかりやすくいうと蒔絵とか日本画で金粉が放射状に描いてあるあれです。

つまり”天の川が金と銀の砂子のようなだ”という意味なのですね。おなじみの歌でありましたが、案外深いのですね。さて七夕。皆様の願いは叶ったでしょうか？



## 銭湯が教えてくれた

ケロリンの洗面器。赤と青の蛇口。ぶくぶくの出る湯船。電気風呂。変な色の薬湯。タコメーターみたいな水温計。カコンという音。向こうの湯からのハクションというくしゃみ。富士山の絵。ゆるゆるのゴムのロッカーの鍵。うめるな!! と書かれた熱い風呂。…さんに置かれた石鹸。籐の籠。知らない誰かが乗った体重計。効きそうもない肩たたきマシン。すぐ目の前がコンクリートブロックな小さな庭。コーヒー牛乳が並ぶガラス張りの冷蔵庫。手書きの入湯料金表。

もうお分かりですね、銭湯です。銭湯はお湯に浸かりに行くだけではありません。人と人との交流をしに行く場所なのです。

番台にはイナセなご主人が座っていました。その奥さんは犬か人形焼きに似ていました。肌がねじきれそうな湯に平気で入るおっちゃんがありました。毎日ふやけるほど長く居るじいさんがいました。水風呂にダイブする人。扇風機にずっと当たっている人。テレビでプロ野球中継を観ている人…などなど、これらは男湯だけの八景ですが、沢山の人がいて、人間模様を観察できたのです。ある賢人は「銭湯は裏切らない」と遺したほどで、それだけ人情や情緒が垣間見られたのです。そのような場所が減っているそうです。たしかに町内に2つはあった高い煙突は無くなりました。

そんな地域の交流の場を取り戻し、地元を活性化させようと江戸川区では「銭湯へ行こう!!」と名を掲げ、“あの時代”を取り戻そうと運動を始めたのです。

銭湯巡りができるスタンプラリーを作り、マスコットキャラ「お湯の富士」に土俵入りを願って PR を開始したのです！（「お湯の富士」はあのきゅーぱみゅぱみゅと共演したこともあるそうです。）



この試み、なんとも粹じゃござんせんか。たしかに家風呂もシャワーも便利ではありますが、やっぱり何かが足りない。その答えはやはり銭湯にあるのです。無くなってしまふにはあまりにも惜しい。この企画を機会に、赤い手ぬぐいマフラーにして、洗面器やタオルを持って、銭湯へ行って、裸の付き合いをしてみたいかがでしょうか。

ところで、銭湯の店先に「わ」とか「ぬ」とかの板が掛けてあることがあるのをご存知ですか？これ、判じ絵になっていまして、“板”に「わ」「ぬ」と書いて、湯が「わ板→沸いた」湯を「ぬ板→抜いた」で、営業中、準備中という意味なんです。さて、この板達が江戸川区の何処の銭湯にあるかは…皆さんの目でお確かめ下さい。（無かったらごめんなさい。葛飾区と足立区にはあります）

おっと、大切なことを忘れていました。下駄箱です。あの使い込まれた木製の鍵がありました。「1」や「3」が人気ですよ。——「わしゃぶち8が好きじゃけん」 ああ、長くのカープファンでしたか。（しかし好調ですなあ）

先日、当事業所は葛西の八雲神社のお祭りに露店を出店させていただきました。その時、ちびっこ達にお配りしたのが「お湯の富士」のマグネットシールです。シールには QR コードを印刷しましてそれを読み取ると江戸川区にある39か所の銭湯がわかるホームページに飛ぶよう仕掛けたら、あっというまに品切れになってしまいました。

尚、春より盛大な秋祭りにアースベースは再び出店します。その模様は10月号に掲載予定。ご期待ください。



## お湯の富士～江戸川区の湯守り人～

さて、「お湯の富士」の仕掛け人に会ってきました。東京都公衆浴場組合江戸川支部健康長寿係しぎはらの鳴原さんです。江戸川区は瑞江の第二寿湯 <http://www.oyunofuji1010.com/gallery/2015/06/post-23.php>（「お湯の富士」で検索！）のご主人です。

「お湯の富士」は鳴原さんがデザイン、コンセプト等を考えられて運営管理しています。ふな〇しーみたいにブレイクしたら私も恩恵を享受したいものです。

目黒雅叙園の創業者・細川力蔵氏がかつてお風呂屋さんだったと知っていますか？石川県の農家に生まれ、小学校を卒業後、神田の銭湯で丁稚奉公の末、港区で自ら浴場を経営、同時に不動産業を営んで財をなした偉大な方です。

目黒雅叙園は日本初の総合結婚式場として有名ですが、雅叙園名物の〈百段階段〉には現在第二寿湯さんの富士山のペンキ絵が日本の伝統アートとして飾られていて、銭湯の歴史や情緒の重要性が証明されているのではないのでしょうか。

鳴原さんはいろいろなことを考えられていました。以前は建築現場の廃材を使ってお風呂を沸かしていたのですが、決して合板は使わなかったそうです。合板は有害ガスを発生させるため、環境に優しくないのだそうです。



現在はコスト面から考えてガスを使って湯を沸かしているようですが、お風呂屋さんの経営で頭を痛めるのはエネルギー問題。銭湯一件あたり必要な火力はアパート5棟分以上のものぼるとのこと、スマートメーター（料金などの検針量）はネットで飛ばして料金計算しているという最新式です。

湯を沸かす燃料の話から、シェールガスの登場でバイオエタノールが落ち込んだためにブラジル経済が冷え込んだこと、エタノールを生産するために作った遺伝子組み換えのサトウキビ畑を元に戻すことが出来なくなって地球の裏側

では大問題になっている…など話はずんずんグローバル化していきました。確かに由々しき…事態…ですね…はい…。

銭湯には電気料金の自由化を謳って詐欺まがいのセールスが来ることも多いそうです。お風呂屋さんの経営者には老齢の方が多く騙されがちだから、鳴原さんが、そういった相談に乗ることがあるそうです。『携帯電話の会社を使うと電気料金の値段も下がって携帯のポイントも余計にもらえる』なんて言われても年寄りがどうやってポイント使うのよ！？と憤慨されていました。

取材を終えて、組合に鳴原さんのような頼れる人がいるのといないのとでは雲泥の差があるなと思いました。この人がいれば江戸川区の銭湯は安泰でしょう。「湯守り」とはこのような方を言うのですね。

これを機会に読者のみなさんも銭湯スタンプラリーにトライしてみたいかがでしょうか？5軒達成で「お湯の富士タオル」、10軒達成で「お湯の富士入浴剤」、20軒達成で「お湯の富士バスタオル」がもらえます。さらに20軒達成者には「お湯の富士オリジナルピンバッジ」が贈呈されるそうです。いずれも個数限定。興味ある方はお早めに。おっと、のぼせと湯冷めには気を付けて。今日も湯上がりコーヒー牛乳がうまい！！



### 編集後記

第8号の「月刊地球基地」いかがでしたか？気が付けばもう2016年の夏も半分を過ぎてしまいました。早いですねえ。また次回よろしくお願ひ致します。

【月刊地球基地】 発行人：一般社団法人 EARTH BASE  
読常者と障がい者が一緒になってサイン・看板を製作しています。

〒132-0034 東京都江戸川区小松川3-2-1 テクノタウン306

TEL : 03-5875-5941

FAX : 03-5875-5942

mail : [info@earth-b.jp](mailto:info@earth-b.jp)

URL : <http://www.earth-b.or.jp/>